



東北大学
共創研究所

CO-CREATION
RESEARCH
CENTER

変革を、日常へ。 「知」の加速が、 まだ見ぬ未来の景色を創り出す。

東北大学は、1907年の建学以来、「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」の理念のもと、世界を変える数々の知を社会へと送り出してまいりました。今日、私たちは国際卓越研究大学 認定第1号 (UREX 1) として、その使命をさらに高い次元へと引き上げようとしています。

いま、社会が求めているのは、単なる課題解決ではありません。不確実な未来を読み解き、新しい価値を「ゼロ」から構想する力です。そのためには、従来の受託・共同研究という枠組みを超え、組織と組織がビジョンを共有し、互いに深く関わら合う真の共創が不可欠です。

本学の「共創研究所」は、企業の皆様がキャンパスの一員となって研究者と日常的に対話を重ね、新たな価値を社会に実装するための戦略的プラットフォームです。多様な知が混ざり合い、加速し、やがて社会を動かす大きな波となる。私たちはこの力を「MOVE AND SHAKE」、すなわち、知の加速によって世界を揺り動かし、人々を熱くさせる変革者であり続けるという決意として定義しました。

私たちは、皆様の挑戦を支える最高のパートナーであり、共に汗をかく伴走者でありたいと考えています。

このキャンパスから、次の時代の定石を共に創り上げましょう。皆様の熱い志を、心よりお待ちしております。

国立大学法人東北大学 理事 (産学連携担当)
産学連携機構長

遠山 毅



東北大学について

国際卓越研究大学
第1号

教職員

6,580人

教員

3,042人

学生

17,975人

実学尊重 産学連携に積極的な風土

民間企業との
共同研究実施
件数

第2^{※1}位

大学発
スタートアップ数

236^{※2}

特許総合力

第2^{※3}位

外国企業との
共同研究実施件数

第3^{※1}位

※1 文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について 令和6年度実績」

※2 2024年度末までの創出数累計

※3 特許総合力ランキング (パテントリザルト2023/4/24)

contents

ごあいさつ	2
東北大学について	3
共創研究所とは	4
インタビュー	5
愛知製鋼×東北大学 次世代電動アクスル用 素材・プロセス共創研究所	
セイコーエプソン×東北大学 サステイナブル材料共創研究所	
ブリヂストン×東北大学共創ラボ	
DOWA×東北大学共創研究所	
東北電力×東北大学共創研究所	
共創研究所の広がり	10
共創研究所 設置企業一覧	11

東京▶仙台 新幹線で1.5時間

次世代 R&D の共創プラットフォーム 東北大学共創研究所

- 連携・交流拠点「共創研究所」を東北大学キャンパスに設置
- 設置企業出身者が「運営総括責任者」となり、活動を主体的に実施
大学教員は「運営支援責任者」として活動を全面的にバックアップ
- 大学の全部局にリーチすることで、変化する課題に対して分野融合で本質をとらえた解決を導出
- 通常の研究に加え、骨太のテーマ探索等の包括的な産学共創活動が可能
国プロの共同獲得、人材育成、大学発スタートアップの活用、若手研究者や学生との連携など



制度詳細

- 内容** 企業の要望に合わせて、研究テーマの探索、特定領域のテーマ推進、人材育成等、フレキシブルな内容の設計が可能です。既設共創研究の活動の類型は、研究テーマ探索型、研究活動推進型、人材育成型、施設利活用型等があります。研究テーマ探索型から研究推進のフェーズへ進む事例が数多くあります。(活動内容を限るものではありません)
- 場所** 東北大学キャンパス内に連携拠点としての居室や研究室を設置
- 体制** 運営総括責任者として、設置企業から1名の社員の方に大学に在籍していただきます。(クロスアポイントメント制度を活用) 在籍には東北大学の特任教員の身分等が付与されます。なお、設置企業から複数人を参画させ、支援チームを形成することも可能です。また、大学での活動割合(エフォート)については、企業側の状況に応じて柔軟に設定することが可能です。運営支援責任者として、大学の研究者が共創研究所に参画し、活動を全面的に支援いたします。大学の複数部局の研究者の参画も可能です。
- 期間** 3年以上10年以下(更新可能)です。

素材の「真価」を學術の「知」で解き放つ

愛知製鋼が「共創研究所・第1号」として拓く、次世代R&Dの地平



愛知製鋼×東北大学
次世代電動アクスル用素材・プロセス共創研究所

「実績のない仕組みに投資価値があるのか」との慎重論も社内にはあった。しかし、電動化という100年に一度の変革を前に、自社単独の開発スピードでは限界がある。これをやらねば生き残れないという熱量で、共創研究所の「第1号」へ足を踏み出した。愛知製鋼の御手洗氏の決断は今、共同研究の枠を超えた、大きな変革をもたらしている。



運営総括責任者
愛知製鋼株式会社 開発本部 本部長
東北大学 特任教授
御手洗 浩成 様

1. 自前主義の限界を、共創で超える

設立の主眼は、次世代電動ユニットの核心、e-Axleの開発だった。東北大学が誇る材料、機械、制御の「総合知」を自社のプロセスに注入することが狙いだった。ここで大きな役割を果たしたのが、運営支援責任者の杉本教授である。杉本教授は、企業の現場が抱える課題を、大学が解くべき学術的な問いへと翻訳し、学内の最適なりソースへと繋いでいった。

その深化の過程で、予期せぬ効果があった。モーターの損失解析から生まれた巻き線構造に関する新たな知見だ。この発見は一企業の枠を越え、同じく共創研を設置する企業との新たな連携へと発展した。「深く掘り下げたからこそ、横の繋がりとという副産物が生まれた。これは従来の部分的な共同研究では到底得られなかった領域です」

2. 技術者の視座を変える人材投資

共創研究所の設置は、人材戦略にも変化をもたらした。まず、採用の母集団が拡大したことだ。従来の材料系に加え、電気・機械系の優秀な学生が、東北大学と深く組んでいる愛知製鋼を志望した。今やここは、最先端の技術領域で学生と出会う、戦略的な採用拠点となっている。

さらに特筆すべきは、現役社員の変貌だ。社会人ドクターの取得や国際学会への登壇、そして共創活動から生まれる特許出願の急増。アカデミアの知見に揉まれることで、社員たちは理論的裏付けを持つプロフェッショナルへと、視座を引き上げた。「当初は『大学でサロニック的に楽しんでいるだけでは』という冷ややかな視線もありました。しかし、彼らが持ち帰る具体的な成果によって、空気は変わりました。今では他部署からも『共創研の活動は有意義だ』との信頼を獲得しています」

3. 共創研究所を「自社のR&D部門」へ

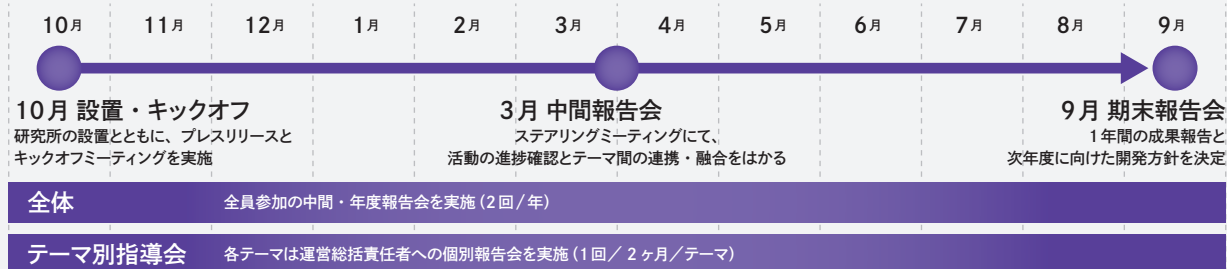
御手洗氏は、これから設置を検討する企業へこう提言する。「我々のような素材メーカーこそ、大学の知を積極的に取り入れるべきです」

独自の材料レシピと製造プロセスを持つ企業が、大学の基礎知見を融合させたとき、真の差別化が可能になる。

共創研究所は我々が主体となって、企業のスピード感で運営できるのが良い。今後、共創研究所を最大限に活用するためには、研究開発(R&D)と社会実装(Social Implementation)の断絶を埋めるため、大学で社会人ドクターを育成しつつ、研究開発の段階から出口の製品を見据えて並走していければと考えている。

「目的意識さえ明確なら、このうえない最高のシナジー効果が期待できる。その価値に気づいたとき、この投資は驚くほど安いと感じるはずですよ」

共創研究所の年間運営スケジュール



※運営スケジュールは、共創研究所ごとに異なります。

国家プロジェクトを完遂させる、 唯一無二の「社会実装プラットフォーム」

セイコーエプソンと東北大学が、構想段階から共に描いたR&Dの最適解



セイコーエプソン×東北大学サステナブル材料共創研究所

「2050年に地下資源消費ゼロを目指す」セイコーエプソンが掲げるこの高い志を、単なるビジョンで終わらせないために。同社と東北大学が構想段階からタッグを組み、内閣府の国家プロジェクト「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」へと昇華させたその挑戦。その実働拠点として機能しているのが、東北大学内の「サステナブル材料共創研究所」である。なぜ彼らは、この場所に未来を託したのか。



運営総括責任者
セイコーエプソン株式会社 技術開発本部
東北大学 特任教授
間ヶ部 明 様

(※肩書はすべて取材当時)

1. SIPと共創研究所を「一体のエンジン」として駆動させる

「私たちの挑戦は、新材料を作るだけでなく、それをどう社会基盤に組み込むかというフェーズにあります。しかし、一企業だけでサプライチェーン全体を動かすのは容易ではありません」

共創研究所の戦略的意義をそう語る。同社は、東北大学と共に参画する内閣府のSIP第3期「サーキュラーエコノミーシステムの構築」と、この共創研究所を密接に連動させている。

「大学という中立的かつ高度なプラットフォームを介することで、業界各社からの生のVOC(顧客の声)が集まり、自社材料の客観的な評価も進む。共創研究所は、社会実装を最短距離で実現するための『戦略的コックピット』なのです。SIPという大きな枠組みを動かす上でも、この拠点はなくてはならない存在でした」

2. ナノレベルの「可視化」が、研究開発のDXを加速する

研究開発のスピード感も、これまでの常識を覆している。その原動力となっているのが、キャンパスに隣接する3GeV高輝度放射光施設「NanoTerasu(ナノテラス)」と、大学の知見の融合だ。

「これまでは『試作と測定』を繰り返すしかありませんでした。しかし今は、ナノレベルの解析データに基づき、高精度なシミュレーションを行ってから動ける。岡部教授をはじめとする研究者の複合材料に関する知見と最先端のファンリティ、この両輪があるからこそ、『見えないものが見える』状態で開発が進められる。これは、当社のR&Dにおけるデジタルトランスフォーメーション(DX)そのものです。この環境を知ってしまった今、もう以前のやり方には戻れません」

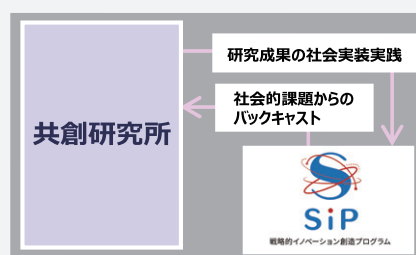
3. 岡部教授が組んだフォーメーションが、成功の確信をくれた

間ヶ部氏が最も高く評価しているのは、目に見える研究知見、設備以上に、東北大学の「組織としてのコミット力」だ。

「何より、岡部教授がコーディネートしてくれた研究所のチーム布陣が素晴らしい。各タスクチームに大学側のメンバーが一人ずつ張り付き、私たちと同じ熱量で、同じ時間軸で汗をかいてくれる。これほどまでに企業に寄り添い、共に戦う姿勢を見せてくれるフォーメーションは、他ではなかなかお目にかかれません。結局、共創が成功するかどうかは、大学側の『本気度』にかかっています。この強固な信頼関係があるからこそ、私たちは未踏の領域でも迷わず進めるのです」

参考 SIP第3期「サーキュラーエコノミーシステムの構築」

内閣府「戦略的イノベーションプログラム(SIP)」第3期、プラスチックを中心とした循環型経済の社会実装を目指す国家プロジェクト。廃プラスチックを“廃棄物”ではなく“資源”として活用し、経済合理性と環境負荷低減を両立する循環バリューチェーンを構築。デジタル技術による情報基盤整備や再生材の高品質化を通じ、環境負荷低減と経済成長の両立を目指す。



「デジタル人材」の育成から広がる組織変革

ブリヂストンと東北大学の共創が駆動する、人材起点の変革モデル



ブリヂストン×東北大学共創ラボ

社会価値・顧客価値を創出するソリューションカンパニーへ。ブリヂストンの変革を下支えしているのが、全社規模で進むデジタル人材育成だ。その中で高度人材育成の中核にあるのが東北大学との連携である。人材育成の積み重ねは、社員一人ひとりの視点と行動を変え、現場の意思決定や業務の進め方を進化させる力となり、組織そのものの変革へとつながっている。



運営総括責任者
株式会社ブリヂストン
デジタルソリューションAI・IoT企画開発部門 部門長
東北大学 特任教授
花塚 泰史 様

1. 人材育成が組織変革のエンジンになる

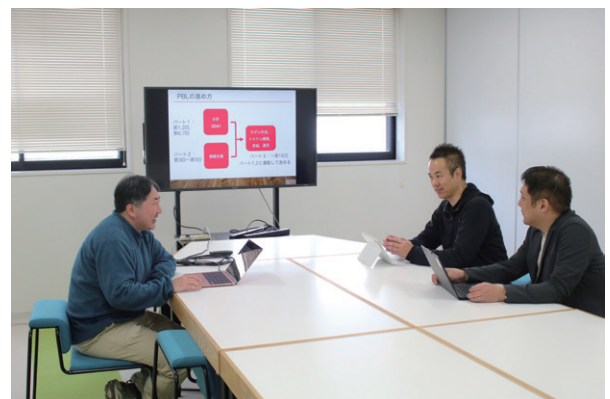
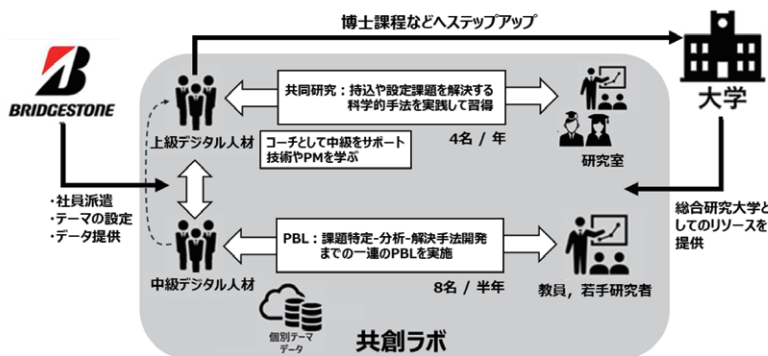
「全社員がデータの意味や活用方法を理解し、業務に生かせる状態を目指しています」
同社では職種を問わずデジタルの基礎力を底上げしている。初級・中級・上級のプログラムがあり、なかでも中・上級プログラムは共創研究所が企画・運営している。「業務外の時間も使うと聞いた。それでもやりたいと思ったんです」
このプログラムは手挙げ方式（公募制）で実施されている。通常業務に加え、課題設定や分析、発表準備までを担うため、相応の負荷がかかる。それでも「挑戦したい」と手を挙げる社員が集まってくる。背景には、「現場を変えたい」「自分の仕事の質を上げたい」という当事者意識がある。本人の意志から始まるからこそ、学びは深まり、修了後も社内で実践が続いていく。

2. 実課題から研究レベルへ進む、段階的育成プログラム

「自分の業務課題と実データを持ち込み、大学の先生と一緒に分析を進めます」
中級プログラムでは、社員が自らの業務課題と実データを持ち込み、東北大学の教員とともに分析に取り組む。学術的な視点と企業データを掛け合わせながら、課題の構造化や高度な分析手法を実践的に学ぶPBL（課題解決型学習）として設計されている。学びはそのまま業務改善へと直結し、現場に変化を生み出す“実装力”を持つ人材を育成している。
「これは研修というより、研究そのものです」
上級プログラムでは、受講者が東北大学の共同研究室に所属し、約1年間、自ら設定したテーマで研究に取り組む。研究方法論を実践の中で体得し、最終的には学会発表ができる水準まで研究の質を高めることを目標とする。企業人でありながら研究環境に身を置く経験を通じて、課題の捉え方そのものを変える、高度専門人材の育成へとつながっている。

3. “University as a Service”が高度人材を育てる

「企業の課題にここまで深くタグを組める大学は他にない」
この言葉が示す通り、東北大学との関係は単なる教育連携を超えている。人材育成や中長期課題に対し、大学が継続的に伴走する体制が築かれている。「産学連携機構の方が伴走してくれるので、研究室との調整や相談が非常にスムーズです」
柔軟な受け入れ体制と研究への深い理解があるからこそ、周辺技術を含めた幅広い挑戦が可能になる。共創研究所は、デジタル人材を継続的に輩出する基盤として、ブリヂストンの変革を根底から支えている。



複雑化する社会課題に 대응、資源循環を支える先端技術共創

DOWAと東北大学が進める、探索型研究と人材循環の持続的イノベーション



DOWA×東北大学共創研究所



資源循環、カーボンニュートラル、労働人口減少。DOWAホールディングスが直面する課題は、いずれも短期的な正解を出しにくいものばかりだ。社会や産業の構造が複雑化するなかで、求められる技術もまた高度化している。同社は共創研究所を、研究成果を単発で生み出す場ではなく、将来の事業や技術の変革につなげるための研究基盤として位置づけている。



運営総括アドバイザー
DOWAホールディングス株式会社
取締役常務執行役員 CTO
東北大学 特任教授
菅原 章 様

1. 「1研究室1テーマ」を超えた、横断型・探索型の研究設計

「現代の技術課題は、もはや単一の専門分野だけでは解決できません。関連するシーズを持つ複数の研究室と同時にプロジェクトを立ち上げる“横の連携”を重視しています」

共創研究所では、「1研究室との個別共同研究」にとどまらず、分野横断型の体制を基本としている。複数の専門性を掛け合わせることで、単独では難しい課題解決を目指している。

「最初からテーマを細かく固定するのではなく、あえて活動内容を限定しすぎないようにしています。探索とチャレンジの機会を広げることで、新たな視点や技術の組み合わせが生まれてくるのです」

テーマ設定も“探索型”。柔軟な設計によって想定外の発見を引き出し、中長期的な社会実装につながる可能性を広げている。

2. 社員の創造性を刺激する「リカレント教育」と「現場技術交流」

「共創研究所は、研究のための組織であると同時に、次世代の技術者を育てるための場でもあります。人材育成は大きな狙いのひとつでした」

共創研究所は研究と人材育成を一体を進める場でもある。技術開発と並行して、人の成長にも力を入れている。

「大学の先生方に事業所や研究所にお越しいただき、技術の本質を議論することで、現場のエンジニアや研究者は日常業務とは異なる最先端の知見や基礎知識に触れることができ、社員の知識・経験・行動に対する意欲が刺激され、大きな反響がありました」

一方で、企業側が学生に開発事例を紹介するワークショップも実施しており、実装の現場を伝える貴重な機会となっている。双方向の学びが、人材の視野と創造性を広げている。

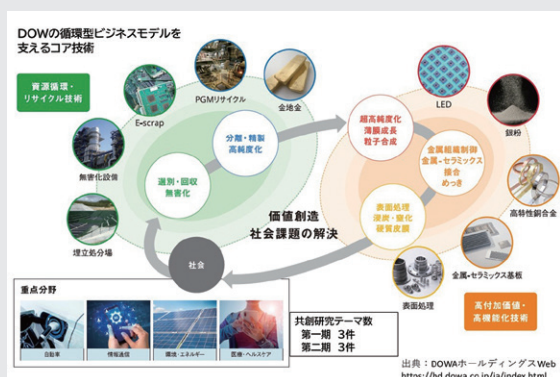
技術交流会：12回、教員22名、DOWA社員243名参加

講義：13回、学生・教員・DOWA社員800名参加（2022年～現在）

3. 社内シンクタンク機能を支える共創体制

「将来的な課題解決を目的とした中央研究所のような立ち位置で機能させることを考えています」

共創研究所は、短期的成果にとどまらず、中長期の視点で技術の可能性を探索し続ける基盤として位置づけられている。その役割を持続的に果たすために重視してきたのが、属人的な関係に依存しない運営体制の構築である。企業側の共創運営チームが技術課題を整理し、大学側の共創支援チームが対応する研究シーズを探索。両者が並走し、定期的な共有を重ねることで、研究を単発で終わらせず、次の共創へと着実に繋げている。そして企業側は事業所や研究所、大学側は研究室を現場ととらえ、現場で交流しながら新しい価値を創造している。



体験型ワークショップ（企業の研究開発紹介）
2022年から年1回開催、TOTAL 31名の学生が参加

東北の課題から、次世代エネルギー社会を構想する

東北電力と東北大学が挑む、社会実装から逆算するエネルギー共創



東北電力×東北大学共創研究所

再生可能エネルギーの拡大、電力需要の高度化、災害レジリエンスの確保—。電力会社を取り巻く環境は、かつてないほど複雑さを増している。こうした構造的課題に対し、東北電力が選んだパートナーが東北大学。両者が進める「共創研究所」は、単なる共同研究の場ではなく、社会実装までを見据えた組織対組織の連携基盤（プラットフォーム）として機能している。



東北電力株式会社 研究開発センター所長 守谷 武彦 様(左)
東北大学 副理事(産学連携) 小田 喜夫(右)

1. 共創研究所だから成し得る「組織的マッチング」

守谷所長「以前は特定の研究室と一対一で進める形が中心でしたが、課題が高度化する中で限界も感じていました。共創研究所では、大学を組織として課題解決に向き合うパートナーと位置づけています。会社全体の課題を共有すると、学内から最適な研究者や体制を提案してもらえるため、解決のスピードと確度が大きく向上しました」

小田副理事「大学側も、企業の課題を組織として受け止めることで、学内約3,000名の専門家の中から最適な教員や研究成果を柔軟にマッチングできるようになりました。この「面对面の連携」こそが、基礎研究から社会実装までのプロセスを大幅に加速させる鍵となっています」

2. 共創研究所を通じた企業人／学生の人材育成

守谷所長「現在、AIを活用した需給予測や蓄電技術など、複数のテーマを並行して検討していますが、特筆すべきは研究開発と人材育成を切り離していない点です。社員が大学のデータサイエンスプログラムに参加し、実務課題を持ち込むことで、最新知見が直接現場に還元され始めています」

小田副理事「学生にとっても、社員と共に学ぶ機会を得ることで、自身のキャリアや「学びの社会還元」を考える大きな刺激になっています。企業の実装現場と大学の知性が融合することで、次世代のイノベーションを担う人材が育つ循環が生まれています」

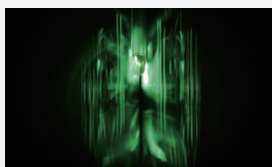
3. 多様な研究の「選択肢」を束で持つ、地域への貢献

守谷所長「自社だけで基礎研究から実装までを担おうとすると選択肢が限られます。総合大学である東北大学と連携し、一つの技術に絞り込まず複数の可能性を同時に検討できること自体が、共創研究所の大きな価値です」

小田副理事「東北は『課題先進地域』とも呼ばれますが、ここでの解決策はグローバルなモデルになり得ます。今後は学内の他の共創研究所とも連携し、異業種間の交流を促進することで、2050年のカーボンニュートラル実現や地域の持続的発展に貢献する『地域エコシステム』を構築していきたいと考えています」

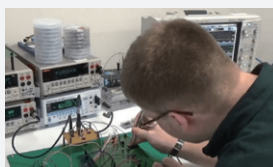
参考 世界トップレベル研究拠点 全学の卓越したリソースを結集、拠点を形成

① 材料科学



基礎数理論科学や物質・材料・デバイス研究を融合し、原子・分子レベルの理解に基づく新材料創出と機能開拓。

② スピントロニクス



電子のスピンを活用した新原理デバイスを開出し、超低消費電力・高速情報処理技術の実現を目指す。

③ 未来型医療



ゲノム・臨床・ビッグデータを統合し、個別化医療や予防医療を実装する次世代医療研究。

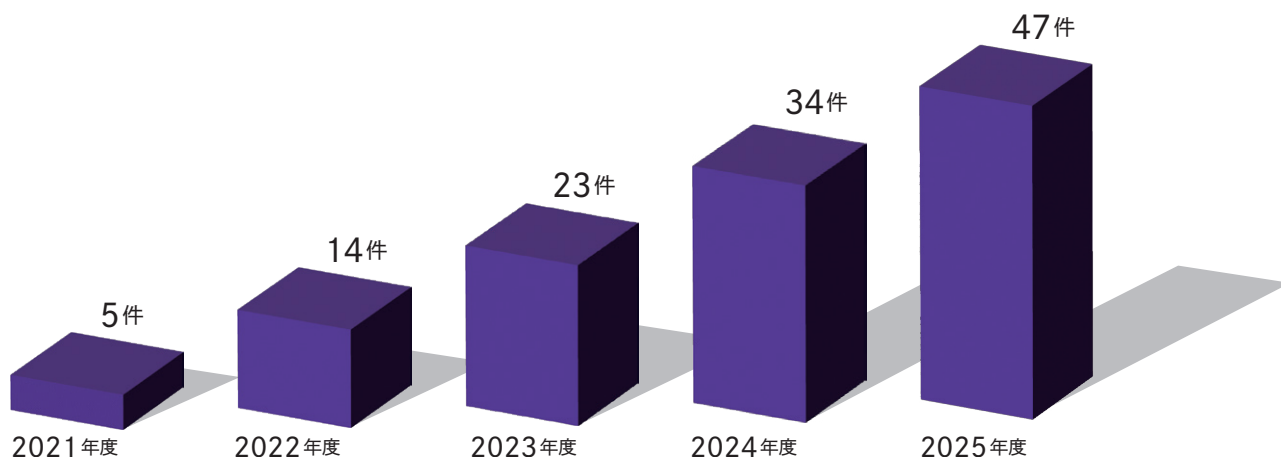
④ 災害科学



自然・社会・人文科学を横断し、災害の予測・被害軽減・復興までを包括的に解明。

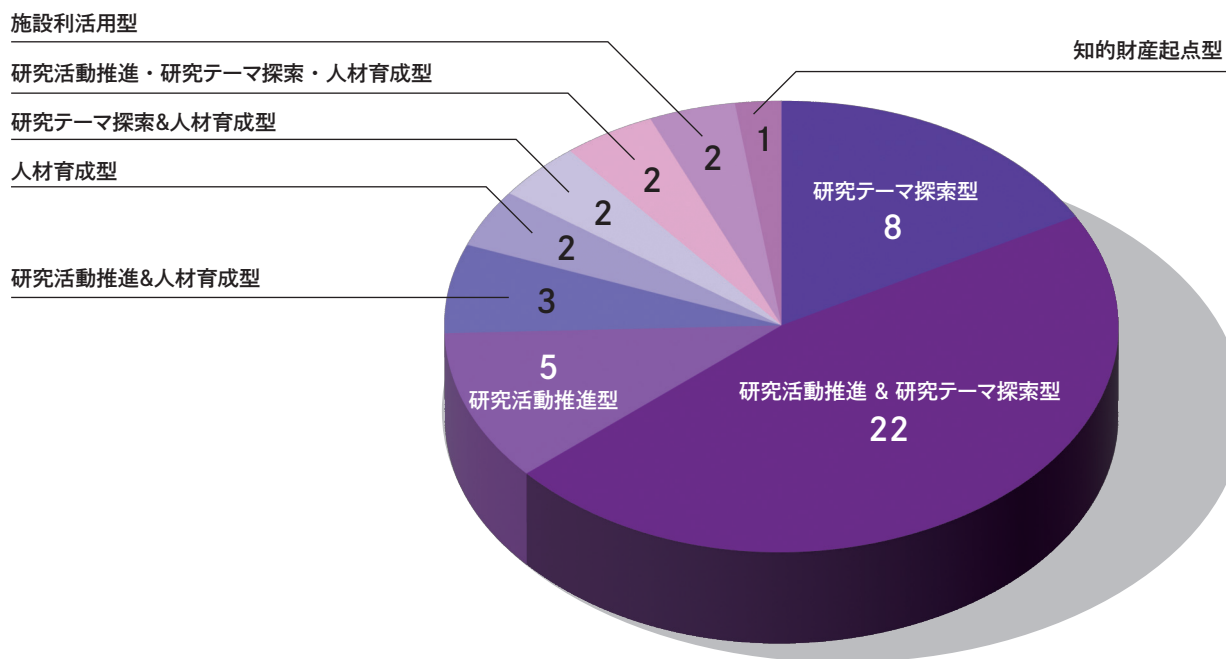
共創研究所 累計設置件数

2026年2月末現在



共創研究所 目的別件数

2026年2月末現在



共創研究所 交流会

共創研究所間の情報共有や相互理解を深め、今後の発展に資することを目的として開催しているものです。



共創研究所 設置実績一覧

2026年2月末現在

設置年月	組織名
2021年10月	愛知製鋼×東北大学 次世代電動アクスル用素材・プロセス共創研究所
2021年10月	ブリヂストン×東北大学共創ラボ
2021年11月	東北電力×東北大学共創研究所
2022年 2月	JFEスチール×東北大学 グリーンスチール共創研究所
2022年 3月	東北発電工業×東北大学共創研究所
2022年 4月	トヨタ自動車東日本×東北大学 環境融和ものづくり共創研究所
2022年 4月	DOWA×東北大学共創研究所
2022年 4月	ピクシーダストテクノロジーズ×東北大学 ホログラフィックウェルビーイング共創研究所
2022年 7月	大同特殊鋼×東北大学共創研究所
2022年 9月	IHI×東北大学 アンモニアバリューチェーン共創研究所
2022年10月	TDK×東北大学 再生可能エネルギー変換デバイス・材料開発共創研究所
2022年10月	富士通×東北大学 発見知能共創研究所
2022年10月	住友金属鉱山×東北大学 GX材料科学共創研究所
2023年 3月	アルプスアルパイン×東北大学 つながる価値共創研究所
2023年 4月	デクセラアルズ×東北大学 光メタセンシング共創研究所
2023年 4月	古河電工×東北大学 フォトニクス融合研究拠点
2023年 4月	3DC×東北大学 カーボン新素材GMSで「世界を変える」共創研究ラボ
2023年 8月	セイコーエプソン×東北大学 サステナブル材料共創研究所
2023年10月	三井化学クロップ&ライフソリューション×東北大学 バイオロジカルソリューション共創研究所
2023年11月	NEC×東北大学 宇宙統合ネットワーク・レジリエントDX共創研究所
2023年12月	TREホールディングス×東北大学 WX(Waste Transformation)共創研究所
2024年 2月	SWCC×東北大学 高機能金属共創研究所
2024年 3月	日本特殊陶業 × 東北大学 MIRAI no ME 共創研究所

設置年月	組織名
2024年 4月	島津製作所×東北大学 超硫黄生命科学共創研究所
2024年 4月	メニコン×東北大学 みる未来のための共創研究所
2024年 4月	鹿島×東北大学 環境配慮型建設材料 共創研究所
2024年 4月	日本電子×東北大学 高度マテリアル分析共創研究所
2024年 4月	AZUL Energy×東北大学 バイオ創発GX共創研究所
2024年 5月	荏原製作所×東北大学 「流れ」で未来をつくる共創研究所
2024年 6月	NAGASE×東北大学 Delivering next.共創研究所
2024年 7月	パナソニックホールディングス×東北大学共創研究所
2024年11月	富士電機×東北大学 先端技術共創研究所
2025年 1月	住友ベークライト×東北大学 次世代半導体向け素材・プロセス共創研究所
2025年 2月	ポーラ化成工業×東北大学 「境界の融和」共創研究所
2025年 4月	日本製鉄×東北大学共創研究所
2025年 4月	住友ゴム×東北大学 次世代シンクロサイエンス共創研究所
2025年 4月	朝日レントゲン工業×東北大学 「みえるをかえる。」共創研究所
2025年 4月	サントリーグローバルイノベーションセンター×東北大学 『水と健康』共創研究所
2025年 4月	EPNextS×東北大学 地域・未来医療共創研究所
2025年 5月	三井金属×東北大学 未来創造材料共創研究所
2025年 6月	神戸製鋼所×東北大学 先端半導体用素材・プロセス技術共創研究所
2025年 7月	デンソー×東北大学 グリーンイノベーション共創研究所
2025年10月	TAI×東北大学 Reconfigurable AI-Chip共創研究所
2025年10月	タムラ製作所×東北大学 先端パワーエレクトロニクス共創研究所
2025年11月	dentsu Japan×東北大学 ダイバーシティワークモデル共創研究所
2025年11月	NanoFrontier × 日東紡 × 東北大学 ナノ材料でイノベーションを加速する共創研究所
2026年 1月	UBE×東北大学 みらい創造技術共創研究所

TOHOKU UNIVERSITY

UREX1

JAPAN'S FIRST UNIVERSITY FOR
INTERNATIONAL RESEARCH EXCELLENCE

国立大学法人 東北大学 産学連携機構

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1 大学本部棟2

tel 022-217-6420 https://www.rpip.tohoku.ac.jp/jp/information/kyoso_kenkyu/

